

ど制異れり、大饗雜事に圓座は京筵面紙を押すといへり、西土に坐團と見えたり、雅亮抄に、玄とねの様なるもの、まろくて、へりばかりのかはりたる也といへり、

〔貞丈雜記調度〕一わらうだとは圓座の事なり、枕草子に、此の草子の内、所々に御わらうだなど聞え給へど云々、是は蒲の葉の圓座なるべし、わらとは、此の草子の内、所々に御わらうだなど聞え給へど云々、是は蒲の葉の圓座なるべし、葉のわらとは、此の草子の内、所々に御わらうだなど聞え給へど云々、是は蒲の葉の圓座なるべし、作りて、物のふたの様なれば、わらふたと云ふを詞にはわらうだと云ふ歟、

〔安齋隨筆前編十二〕圓座 禁中に用らるゝも、本は蒲にて組たる也、蒲團と云も此事也、後は綾錦にて包み作りたるもあり、圓座の中に穴を明けたるは古様ならず、穴を明けたるをばハマと云、ハマ弓は是を射る也、

〔瓦礫雜考一〕はま 濱なげ

中に穴ある丸きものを濱といふは、端をはいひ、間中をまといふ歟、又は濱曲などいふことより、輪をはまといひしにや、略○中

圓座の中に穴を明たるをはまといふも、義はおなじかるべし、圓座は禁中にて用ひらるゝも、もとは蒲にて組たりとぞ、これ即蒲團なり、後には錦綾にて包み作りたるもあり、



此圓座古畫に多く見えたり、圓座の中に穴をあけたるは、古様ならずといへるものもあれど、穴あきたるが古製なるべし、圓座を和名抄に和良布太と訓せるは、稻草にて造りたるゆゑにや、蒲團といふも蒲にて造れば也、ワラハ、稻草蒲などにて曲に玄て造らば、中に穴あるべき筈なり、中に綿など入て錦綾にてつゝまば、穴は無き理なり、さるを錦綾にて製たるにも、ことさらに穴あくるは、本の形を存せるなるべし、略○下

圓座製作

〔延喜式掃部〕三八。蘭。圓。座。一枚。尺。徑。三。料。蘭。作。以。一。圓。長。功。一。人。中。功。一。人。半。短。功。二。人。

菅。圓。座。一枚。厚。一。寸。三。尺。長。功。一枚。半。中。功。一枚。四。分。之一。短。功。一枚。

蔣。圓。座。一枚。厚。二。尺。五。分。長。功。十五。枚。中。功。十二。枚。半。短。功。十。枚。

細繩長功百五十丈、中功百丈、短功七十五丈、造鋪設所須、高棚二枚、隨破請換刀子二枚、長針四枚、宮人日